



石神井南中学校 学校だより

令和 2年度 第 4 号

発行日 7月30日(木)

練馬区立石神井南中学校

校長 田 邊 克 宣

想像の翼を広げ、よりよい世界の創造を

校長 田邊 克宣

7月に行われた前期生徒総会は、集団を避け、放送による企画となりました。役員及び各専門委員長たちにとっては、前例のない取組に、その緊張感は殊更だったことと推察しますが、念入りに準備をし、当日は実に堂々と立派に議事を進行していました。また、生徒会員諸君も、それぞれの教室で皆が真剣に話を聴き、生徒総会に主体的に参加する姿が素晴らしいものでした。与えられた環境の中で最善を尽くす、その姿勢を具現化し、また、今年度の学校スローガン「創造」への第一歩を印す生徒主体の行事として、大成功を収めることができました。

さて、話は変わって、ハヤブサが、こちらに向かって飛んできます。ご存じのとおり、小惑星探査機“はやぶさ2”が、「リュウグウ」で採取したサンプルを抱えて、現在、宇宙空間を地球に向かって真っすぐに飛んできているところです。はやぶさ2が、昨年の11月にリュウグウを出発してから8ヵ月、総飛行距離は6月の時点で48.6億 kmにも達したそうです。今年の11月から12月にかけて、地球の中心から1万 km以内にまで近付き、リュウグウで採取したサンプルを大気圏外から投下したのち、再び別の天体に向かって旅を続ける計画だということです。地球から何十億 kmも離れた宇宙空間における操作をリモートで行えることに、人類の英智の結晶を見る思いがします。あと4ヵ月、無事の帰還が待ち遠しいばかりです。

宇宙というマクロの世界でも、ウイルスというミクロの世界でも、古来人類は、その現象を捉え、原理を解明し、対応策を講じてきました。それらは現在進行形で、よりよい世界を構築することを目指して、人文科学のあらゆる分野で日々行われていることです。

現在、日本では、長引く梅雨に、各地の大雨被害が続く、新型コロナウイルスに加えて、秋以降のインフルエンザに対する備えも考えなければならない中、生きるためには経済活動も必要不可欠であり、そのバランスをどうとっていくべきか、非常に難しい局面の中を我々は過ごしています。今は、まず健康を第一に考えることが大切です。それはとりもなおさず、自分と、他者との相互の関係の中で成り立つということを改めて意識するよい機会です。他者とは、家族や友人といった自分の周りにいる者だけでなく、自分と関わりのある人を介して接触する可能性のある全ての人々も含まれます。自分も含めて、一人一人全ての人がこの世界で生きていることの意味を考えるには、そうした見えない人たちと自分とが、間接的に関わり合っているのだということを想像する力が必要です。“情けは人のためならず”という成語に倣って、今一度、自分の行動を振り返ってみるとよいでしょう。

今年の石南中の夏休みは3週間です。何かを習慣化させるには十分な時間であり、また、ゆっくりと過ごす時間をもつこともできる期間です。生徒諸君は、目の前のやるべきことにはもちろんしっかりと取り組みながら、それだけに捕らわれることなく、新たな世界を創造するために、自由に想像の翼を広げて、遠い宇宙や見えない世界に思いを巡らせる時間をもってください。たとえ今すぐには答えの出ないことがあっても、いま考えたことは、きっと自分の未来につながっていきます。

では、2学期にまた、元気に会いましょう。

保護者並びに地域の皆様には、1学期中のご支援、ご協力に感謝申し上げます。夏休み中の子供たちの見守りをどうぞよろしく願いいたします。

☆休み中に何か相談したいことがあれば、信頼のできる大人に話してください。1人目にうまく伝わらなくても、諦めずに、3人の大人に相談してみてください。必ず親身になってくれる人がいるから。石南中の先生たちは、もちろんきちんと話を聴きます。

自治の楽しさを味わおう

～前期生徒総会から～

やっとセミの鳴き声が聞かれるようになりました。1学期も今週で終わります。生徒の皆さん、どんな1学期でしたか。制限がある中で生活でしたから、我慢をする場面も少なくなかったはずですが、そのような中でも、自他の健康を第一にしながら、今できることを一生懸命取り組む姿が随所に見られた1学期だったと思います。

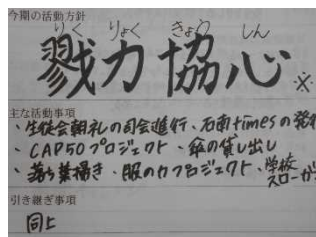
臨時休業が明けて分散登校が始まり、学校に生徒が戻ってきた日、久しぶりに会えた友達と互いに喜び合う姿や、部活動が再開した日、感触を確かめるように道具を触りながら、自然に笑顔がこぼれていた姿は特に印象的でした。

そんな1学期の中で、生徒のみなさんにとって意義深い行事だったのが、前期生徒総会です。

「戮力協心」

(りくりよくきょうしん)

力強い文字が目飛び込んできました。意味は「協力して物事を成し遂げること」とあります。



これは、議案書の1ページに記された、生徒役員会の活動方針です。以下、保健委員会まで、各委員会の前期活動の指針となる計画が示されています。委員会がこの計画に沿って活動を進めてよいかどうかを審議する最も大切な会です。

今回は、放送により行われました。発言者は放送室から活動計画について演説し、会員は各クラスで議案書を見ながら放送を聞きます。従来のように一同に会してその場で議論する場面は設定できませんでしたが、事前に各クラスで討議し提出された質問は、スクリーンに紹介され、それに対して各委員長が回答をしていました。

ところで皆さんは、自分が所属する学年学級委員会の活動方針を言えますか。

「学年代表としての責任をもち行動する」(1年)、
「推進」(2年)、

「普遍妥当主義」(ふへんだとうしゅぎ) (3年)

です。それぞれの言葉に込められた思いや意味を説明する委員長さんたちの熱弁は、聞き手に伝わるものがありました。



会員はこのようなやりとりを聞いた上で、じっくりと吟味し、承認する場合はその意思を拍手で表します。もちろん自分の



意思で、拍手をしない権利も保障されています。その上で、全体の拍手の状況から、賛成多数と判断されれば承認です。各学年の拍手の様子を役員が確認した結果、めでたく、全ての委員会で活動方針が承認されました。

みなさんは、自分たちの学校生活を誰もが過ごしやすい場所にするため、自分たちでアイデアを出し合い、それを形にしていけることができます。このような営みを「自治」と言います。石南中は、自治の力を磨くチャンスがたくさんあります。大人からお膳立てされたものではなく、自分たちの手で新しいものを創り出したときの喜びは格別です。みなさんには是非、中学生である今、自治の楽しさを味わってほしいと思います。その経験が、将来、ますます多様化する社会を生きていく中で、様々な価値観を互いに認め合いながら、誰もが生活しやすい社会を作っていくための力になります。

活動の範囲が十分とはいえない状況はまだしばらく続くかもしれませんが、その中でもできることを積み重ね、皆さんそれぞれが活躍する姿をたくさん見られることを期待しています。

(副校長 今井康夫)